

Children's World Water Forum Follow Up In Tokyo

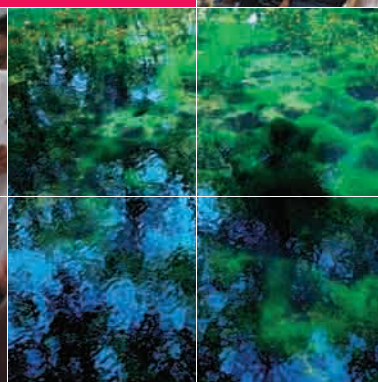
世界子ども水フォーラム フォローアップ in 東京 2008



世界子ども水フォーラム フォローアップ in 東京2008

事務局：(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
〒103-0001東京都中央区日本橋小伝馬町 11-9
住友生命日本橋小伝馬町ビル2F
TEL. 03-5847-8307 FAX. 03-5847-8314

(財)河川環境管理財団 <http://www.kasen.or.jp>
子どもの水辺サポートセンター <http://www.mizube-support-center.org>



東京からイスタンブールへ

From
Tokyo
To
Istanbul

世界子ども水フォーラム フォローアップin東京2008

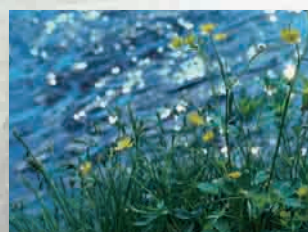
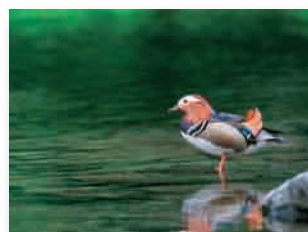
開催趣旨

世界の水危機について国際間で協議し、解決に向けて具体的な指針を示すことを目的として、「世界水フォーラム」が、1997年より3年毎に開催されています。2003年に日本（京都・大阪・滋賀）で開催された「第3回世界水フォーラム」では主要な分科会のひとつとして「第1回世界子ども水フォーラム」が開催され、日本の中高生が多数参加し、水問題解決のための行動等についての議論や発表を行い、世界各国の子どもたちと交流しました。

この「世界子ども水フォーラム」を引き継ぎ、2003年より水に関する諸問題解決策の普及・啓発と子どもたちのネットワーク構築等による人材育成を目的として、「世界子ども水フォーラム・フォローアップ」を毎年開催しています。2006年のメキシコで開催された「第2回世界子ども水フォーラム」には、このフォローアップ参加者から選抜し、派遣しました。

「世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京2008」は、次世代を担う中学校・高校の生徒を対象に、世界の水に関する諸問題や自分たちが行っている水に関する活動等について、お互いに議論し、考え、発表する機会を提供することにより、子どもたち自身の活動の更なる発展を期待するとともに子どもたちのネットワークを広めていくことを目的として開催しました。

また、本大会では2009年3月に開催される第5回世界水フォーラム・イスタンブール大会への派遣候補者の選抜を行いました。



開催目的

- ① 世界子ども水フォーラム及びフォローアップ大会における経験及び成果を引継ぐ。
- ② 水に関する活動を広げていくため、自分達子どもができることを議論する。
- ③ 子どもたちの水に関するネットワークを構築する。（同じ仲間がいることを知る。）
- ④ 次世代を担う若者たち、子どもたちを育成する。
- ⑤ 第5回 世界水フォーラムで子どもたちから世界に発信できる水に関する内容を議論する。
- ⑥ 第5回 世界水フォーラムに派遣する子どもたちを選抜する。

開催概要

開催日程

平成20年8月4日(月)～6日(水) 2泊3日

開催場所

独立行政法人 中小企業基盤整備機構 経営基盤支部
中小企業大学校 東京校

主催

世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京2008
実行委員会

共催

(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター

後援

文部科学省
農林水産省
国土交通省
環境省
NPO法人 日本水フォーラム
NPO法人 自然体験活動推進協議会
NPO法人 川に学ぶ体験活動協議会



中小企業大学校 東京校

目次

開催趣旨	1
開催目的	2
開催概要	2
フォローアップin東京2008の特徴と効果	3
プログラム	3
大会の様子	
1日目 8月4日(月)	4
2日目 8月5日(火)	7
3日目 8月6日(水)	9
第1分科会	13
第2分科会	15
第3分科会	17
第4分科会	19
第5分科会	21
第6分科会	23
フォローアップin東京2008に参加して	25
関連ウェブサイトの紹介・参加者一覧	26
実行委員・運営スタッフ一覧	26



フォローアップ in 東京2008の特徴と効果

- 水に関心を持っている、さらに自ら活動している中高生を全国から募集
- 水問題に関する作文提出による審査
- 大会の運営は、OB・OGからなるファシリテーター等の運営スタッフが中心となって実施
- 自分達自身の活動発表やグループ討議の結果を発表することによるスキルアップ
- 自分達の活動に対する改善と他への普及に向けてのネットワークの構築



スタッフのファシリテーション能力向上のためファシリテーション講習会を開催

プログラム

8月4日(月)

13:30 受付開始(中小企業大学校)

14:00 開会式(講堂)

開会宣言(参加者代表)
開会挨拶(岡島委員長)
実行委員紹介
開催趣旨説明
記念撮影

14:30 オリエンテーション(講堂)

スケジュール説明
本大会の注意事項
館内利用の注意事項

15:00 アイスブレイク(交流室)

全スタッフ紹介
名刺交換会
アクティビティ

16:30 チェックイン

各自部屋に荷物移動

17:00 分科会①(各教室)

(6分科会にグループ分け)
事前学習レポート発表

18:30 夕食(食堂)

各分科会で食事

19:30 分科会②(各教室)

各分科会でのWS

22:00 入浴・就寝

8月5日(火)

7:00 起床

7:30 朝食(食堂)

8:15 分科会③(各教室)

各分科会でのWS

12:00 昼食・休憩(食堂)

各分科会で食事

13:00 トルコのお話(講堂)

トルコの話(川や水事情など)

14:00 分科会④(各教室)

各分科会でのWS

16:00 交流会(事務局室)

参加者全員でWS
(ワールドカフェ等のアクティビティ実施)

18:00 夕食(食堂)

各分科会で食事

19:00 分科会⑤(各教室)

各分科会発表準備
各分科会成果取りまとめ

22:00 入浴・就寝

8月6日(水)

7:00 起床

7:30 朝食・後片付け等退所準備

8:30 全体発表会(講堂)

各分科会の発表
(発表15分、質疑7分、委員コメント3分)
※委員コメントは各分科会毎に1、2名
(6分科会@25分程度)

イスタンブール派遣候補者投票

11:30 昼食(交流室)

さよなら交流会(立食)

12:30 閉会式(講堂)

イスタンブール派遣候補者発表
(宮尾委員)
講評(榊瀬委員)
閉会宣言
(イスタンブール候補者)
閉会挨拶(中嶋委員)
記念撮影

13:30 解散(中小企業大学校)

大会の様子

1日目

8月4日(月)

集合・受付



東京駅集合



東京駅での集合写真



列車内の様子



東大和駅到着



駅から会場への移動



受付の様子

開会式

開会式ではまず、地元東京から参加している荒川桃子さん(高校3年)による「水を守り次世代に残していくために、自分たちにできる最善策を話し合ってください」と力強い開会宣言で始まりました。続いて、岡島実行委員長から「全国各地から中高生、大学生、大学院生といった様々な人が集まっている。お互いに助け合って議論していきましょう」と開会挨拶を頂きました。



参加者代表による開会宣言



岡島実行委員長の開会挨拶



開会式直後の全体写真



開会式に引き続き、参加者全員でアイスブレイクとして、ミニゲームを行いながら自己紹介や名刺交換をし、緊張をほぐし他の参加者と交流しました。アイスブレイクで緊張をほぐした後は、各分科会に別れ、自己紹介を兼ねて事前学習レポートを発表し、意見交換を行いました。

その後、分科会ごとの夕食で参加者同士が交流を深め、1日目の最後には各分科会に別れ、それぞれのテーマについて議論を開始しました。

アイスブレイク



猛獣狩り



赤い糸



名刺交換



バンビちゃん Part 2

夕食



第3分科会



第5分科会

分科会



第1分科会



第1分科会



第2分科会



第3分科会



第4分科会



第4分科会



第5分科会



第6分科会

大会の様子

2日目

8月5日(火)



午前中は、昨晚から引き続き、分科会テーマ毎に議論を行いました。また、本大会では2009年3月にトルコのイスタンブールにおいて開催される「第5回世界水フォーラム」への派遣候補者を選抜することもあり、昼からは駐日トルコ共和国大使館のセルダル・ジェンギズー等参事官(通訳:同大使館文化広報参事官室の大森氏)を講師に、トルコの文化や日本との繋がりなどについて講演していただきました。

続いて夕食前には、これまで同じ分科会の参加者との議論や交流する機会しかなかったため、他の分科会の参加者達との議論や交流を目的に、「ウィッシュポエム」や「ワールドカフェ」といったアクティビティを用いた交流会を実施しました。

また、夕食後には最終日の全体発表会に向け、最後の分科会での議論を行い、夜遅くまで、発表会のリハーサル等の準備を行っていました。

トルコの話



駐日トルコ共和国大使館のセルダル・ジェンギズー等参事官の講演

交流会



ワールドカフェ



ウィッシュポエム



分科会



第1分科会



第2分科会



第2分科会



第3分科会



第3分科会



第4分科会



第5分科会



第6分科会

大会の様子 3日目

8月6日(水)



発表会

最終日は、6つの分科会ごとに、議論した成果を発表し意見交換しました。

ヒーロー戦隊ものや内閣を模したものなど各班のユニークな発表に実行委員も他の参加者も驚かされました。



第1分科会



第2分科会



第3分科会



第4分科会



第5分科会



第6分科会

イスタンブール派遣候補者投票

各分科会の発表後に、実行委員から子ども達まで参加者全員で、イスタンブールへの派遣候補者選抜のための投票を行いました。



イスタンブール派遣候補者投票の様子

さよなら交流会

閉会式の前に、参加者間での最後の交流として、昼食を兼ねた「さよなら交流会」を実施しました。参加者たちは短い時間でしたが一緒に過ごした仲間たちとの別れを惜しんでいました。





閉会式

閉会式では宮尾実行委員からイスタンブール派遣候補者の発表がありました。派遣候補者はこれから数回の勉強会を経て数名の派遣者に選抜されます。続いて榊瀬実行委員からの全体講評では、「情報の発信方法を検討し、現在の活動を広げて行って下さい」と激励の言葉がありました。

次に閉会宣言として、イスタンブール派遣候補者全員に抱負を語ってもらい、続いて、運営スタッフから参加者へ挨拶があり、感極まって涙するスタッフもいました。

最後に中嶋実行委員から参加者に「本物を目指して頑張ってください」との閉会挨拶でフォローアップ in 東京2008大会の幕が閉じました。



宮尾実行委員からイスタンブール派遣候補者の発表



榊瀬実行委員の全体講評



運営スタッフの挨拶



閉会式会場の様子



イスタンブール派遣候補者の閉会宣言



中嶋実行委員の閉会挨拶

イスタンブール派遣候補者



イスタンブール派遣候補者

イスタンブール派遣候補者一覧

(敬称略、都道府県順)

県別	名前(ふりがな)	性別	学年	県別	名前(ふりがな)	性別	学年
北海道	三上 絵理華 (みかみ えりか)	女	高3	兵庫県	岩橋 祐太 (いわはし ゆうた)	男	中2
青森県	高木 駿 (たかぎ しゅん)	男	高2	山口県	吉野 智美 (よしの ともみ)	女	中2
茨城県	門口 光司 (かどぐち こうじ)	男	高1	福岡県	仲野 美穂 (なかの みほ)	女	高2
東京都	荒川 桃子 (あらかわ ももこ)	女	高3	福岡県	坂本 裕基 (さかもと ゆうき)	男	高2
神奈川県	山崎 愛柚香 (やまさき あゆか)	女	高1	福岡県	曾根 裕子 (そね ひろこ)	女	中3



閉会式直後の全体写真

水による災害

(洪水や津波、土砂災害等)

災害による被害を軽減するために普段から行うべきこと。
また、災害発生時・災害発生後に子ども達ができること。

発表の概要

第1分科会は、災害による被害を軽減するために普段から行うべきことは、普段の活動を通して災害時に落ち着いて行動ができるように心にゆとりを持つことが大事であり、災害発生後はボランティア等の共助の心が大切だと発表しました。また、川で活動することで防災のことも学んでいくので、普段の活動が大切だということや災害から学んだことを普段の活動にも活かすことを伝えました。



実行委員コメント

- 普段の川と洪水時の川は見た目は全然違うが、同じ川であり、普段の活動から防災を考える必要があります。また、防災は川の外に水が溢れるだけでなく、集中豪雨で川の水位が一気に上昇し、水難事故という災害が現実起こっていることも考えておく必要があります。
- 日頃の活動で災害時の対応を学んでいることがよく分かりました。次に、それを伝える側としても頑張ってください。
- 多くの人が川に近づかなくなり、川に関心を持たなくなった結果、洪水時でも避難勧告が出ていないとの理由で避難しない等、感覚が鈍ってきています。川に目を向けることにより、川と人との距離感が近づき、いざという時は本能的に行動に繋がります。皆さんの活動の輪を拡げることにより人の命や川そのものを守ることに繋がります。

ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター 武田 行剛



記録係 友原 亜紗美

- とにかく、無事に終わって何よりです。たった3日間ですが、人は確実に変化していることを考えさせられました。そして、全員がとても楽しそうだったので良かったです。今後も楽しい発表を目指して欲しいです。
- 子どもたちの活動・取組みに対する姿勢に刺激を受けております。今後も彼ら・彼女らに負けないように精進していきたいと思います。トルコ候補者にも頑張ってもらいたいです。

第1分科会 水の輪すく



桜庭 しほ 青森県 高2



市川 将大 長野県 高3



大野 勝也 岐阜県 高2



上村 真由佳 京都府 高2



橋 夏澄 兵庫県 高2



吉野 智美 山口県 中2



豊田方 康輔 鹿児島県 中2

水と自然環境の保全①

水や川に関わる自然環境(生態系、水質、ゴミなど)を保全するために、子ども達が行うべきこと。

発表の概要

第2分科会の発表は、実体験に基づく芝居形式で、環境保全活動の仲間作りやネットワークの構築について発表を行いました。「今、私たちにできること、私たちにしかできないことは、環境を守り、行動に移していくことです。皆さんも行動に移していきましょう」と他の参加者に力強く呼びかけました。



実行委員コメント

- 一人一人がどのような環境保全活動をしていけばいいのかや仲間を増やすための草の根的な活動を日頃の活動を通して発表していたが、非常に大変な思いをしているなと感じました。一人一人の意識を上げていくのはとても大変なことです、これからも頑張ってください。
- どの分科会もよくこれだけの短い期間で、議論をし、すばらしい発表をしていることに感心しました。



ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター 小堀 進



記録係 灰塚 果苗

- 風船によるバレーボールは、参加者みんなに、チームワークや世代・性別を越えた絆を届けてくれました。発表中では、風船という我が分科会の鍵となるメッセージが、説明不足でいまいち伝えきれませんでした。熱い思いを風船に込めて、世界中に届けられたらと思います。
- 変わり者…っと思われがちな、水問題に取り組む活動ですが、みんなに『あいつは、バカだね〜!』って、言われるくらい、道を極めてもらえたら、本望だと思います。そのお手伝いが少しでも出来ていたなら私は幸せです。ありがとうございました。

第2分科会

自分達の活動を通してわかったこと…

2008.8.4 ~6

Members
・パトリック:大谷 晃平
・ワリボ:松本 裕太
・バカリ:坂本 裕基
・バカリ:下田 祐也
・フタリ:フタリ:小西 亜由美
・フタリ:小西 亜由美
・フタリ:小西 亜由美



石坂谷 沙織 茨城県 中1



松崎 裕太 栃木県 高3



下田 祐也 岐阜県 高2



小西 亜由美 滋賀県 高2



大谷 晃平 香川県 高3



坂本 裕基 福岡県 高2



衛藤 優美 福岡県 中3

水と自然環境の保全②

水や川に関わる自然環境(生態系、水質、ゴミなど)を保全するために、子ども達が行うべきこと。

発表の概要

第3分科会は、「水問題に関心のない人達にどのようにすれば危機感をもってもらえるか」に重点をおいて話し合い、閣議を模した形式で発表を行いました。いろんな人達に関心を持ってもらうには、地域のイベントや出張活動を行っていく必要があります。子ども達が水問題を解決していくには、地域や行政との連携、発信型の広報(体験者が劇や紙芝居等で伝える)が必要であることをみんなに伝えました。



実行委員コメント

- 普段体験している人が、楽しさと危機感を伝えていくという発表を聞いてなるほどと思いました。現在、税金は河川整備に直結しないといけないということで、広報活動は非常に危うい状況になっています。皆さんがこれからも主体的に「川の大切さ」「水の重要さ」を多くの人たちに伝えることを発信して行くという発表を聞き、非常に頼もしく感じました。
- 小さい時から水辺に親しんできた人とそうでない人の間をどのように繋げていくか。水辺以外の上流の森林やまちづくりと合わせて、良い水辺にするというアピールに繋げて欲しい。

ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター 池田 幸子



記録係 三橋 渉

- どのグループも個性がたくさん発揮された面白い発表ばかり。チームワークの良さ、子どもたちが3日間見てきたものが分かって「子どもらしい長所」がどの分科会にもありました。
- 子どもたちが変わっていく様子には、今回もまたかなり感動しました。本当にこの経験には他では味わえないたくさんの思いがあります。子どもたちにもこの機会を与えてくださった方々にも感謝の気持ちでいっぱいです。

第3分科会
テーマ

保全の輪を広げよう 8月6日(水)

★最大の論点

それは、どうやってより関心を持ってもらえるか。

メンバー(9名)

・さっちん ・おたる
・ななこ(尾畑)・ヒロエロ(曾根)
・しおち(塩塚)・大将(門口)
・さっしー(佐々木)・いざり(大野)
・ゆづくん(佐藤)

★

私たちが、環境に興味がない人にする事。

《発信型》

イベント { ホスター、パワーポイント
アウトプット、紙芝居、劇 }
チラシ配布
出張
宣伝活動

《体験型》

① 学校でイベントをみる。
地場でイベントをみる。
② まっかけをつくる。
↓
施設をつくる。
(例) フィッシング公園、水辺館
↑↑友達を連れていくと効果的↑↑

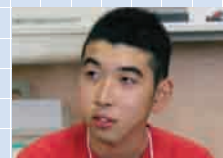
【何より、実体験が大事だ!!】

★感想

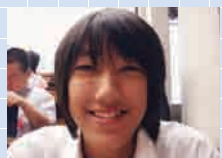
この分科会で、自分達の活動が、地域の人達に伝わっていることを実感しました。この分科会を通して、自分達の活動が、地域の人達に伝わっていることを実感しました。この分科会を通して、自分達の活動が、地域の人達に伝わっていることを実感しました。



門口 光司 茨城県 高1



佐藤 勇慈 栃木県 高3



佐々木 渚 長野県 高3



尾畑 那菜子 愛知県 中2



大野 宏貴 愛媛県 高2



曽根 裕子 福岡県 中3



塩塚 雅樹 福岡県 高3

水と自然環境の 復元・再生

水や川に関わる自然環境（生態系、水質、ゴミなど）を復元・再生するために、子ども達が行うべきこと。

発表の概要

第4分科会は、川を汚す悪を倒す「アクアレんジャー」という戦隊モノの劇で発表を行いました。「愛する水の六ヶ条」をテーマとして、今、自分たちだからこそできる事を考え、自分たちの活動には、大人と手を組み、いい意味で利用することで、中高生が主導し、周りの世代を引張って行き、無限の可能性が広がると発表しました。



実行委員コメント

●自分たちの活動を背景に議論及び発表されており、非常に良くまとまっていた。大人を利用するとあったが、大人が動かされる時とは、愛する子ども達が変わる時、或いは変わった時に協力する動機となります。お願いするだけでなく、自分自身を変えていくことによって、周囲の社会の力を引っ張り出すことを意識すると、いろいろな環境活動に繋がります。



ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター 小野寺 希



記録係 下村 亮介

- 全員とっても目がキラキラしていて自信を持って発表している姿にとっても感動しました。私たちの分科会が伝えたかった「大人より自分たちの方が行動力がすごいから大人は俺達についてこい」という気持ちと「自分達にしかできない事をしているという自信」。十分伝わったと感じています。
- この3日間、参加の子どもたちに驚き、学ぶことが多かった大会だったと感じています。たった3日間で子どもたちの表情が明るくなりキラキラとした目をみてとても頼もしく感じ、とても嬉しく思っています。

第4分科会

愛を取り戻せ! ~ 復元・再生 ~

メンバー: 三上絵理華、岩橋祐太、山中佑也、松尾かえで、荒木龍太郎、近藤大地

♡ 愛する水の六ヶ条 ♡

1. 沼、川、湖が好きな場所が重なる
2. 水を身近に感じてもらう
3. 自由に楽しみながらいろいろな体験ができる
4. 笑顔になれ、笑顔を作る活動
5. 幅広い活動を通して人間関係の輪が広がる
6. 自然を通して大切な所や危ない所を知る事ができる

特権を生活に活かす

☆ ローカルの復元再生 ☆

まっちゃん: 自然体験活動、ホテルを増やす、常緑樹の間伐で温床の水を入れる、リバーゲームで自然に親しみ、シンファームで自然の恵みを受け、自然環境の改善、森林による土壌の改善、災害防止にも使用可能

たいろん: 植樹活動、アオコ駆除、いろいろなイベントへ参加

りゅーちゃん: ホテル育成、YNHC通信作成、交流会実施、ゴミひろい

やまぴ: 植生分布調査、水質調査に、環境を知る、清掃活動に、生物多様性を保護

☆ 今、自分たちだからこそできる事 ☆

- ・幅広い年齢に教える事ができる
- ・地道にできる
- ・楽しい雰囲気の中でできる
- ・限りがなければなんでもできる
- ・いろいろな経験ができる
- ・フィールドが自由
- ・活動から色々な事を学べる
- ・いろいろな特権がある
- ・難しい事を簡単に伝える
- ・基本的に権力が大きい

😊 活動の未来予想図 😊

- ✕ ホテルに戻ってきてほしい
- ✕ 次の世代へ活動をうつす
- ✕ 大沼で遊ぶ
- ✕ 昔の良き環境、風景に戻ってきてほしい
- ✕ 程良い栄養と水に残しつつ今の地域の生物も守りたい

問題点: いろいろ問題があがったけど自分達のやる気があったり、大人に協力してもらえば、のりえいける!



三上 絵理華 北海道 高3



岩橋 祐太 兵庫県 中2



山中 佑也 愛媛県 高2



松尾 かえで 福岡県 中3



荒木 龍太郎 福岡県 高2



近藤 大地 鹿児島県 高1

発表の概要

実行委員コメント

-



ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター
坂本 貴啓

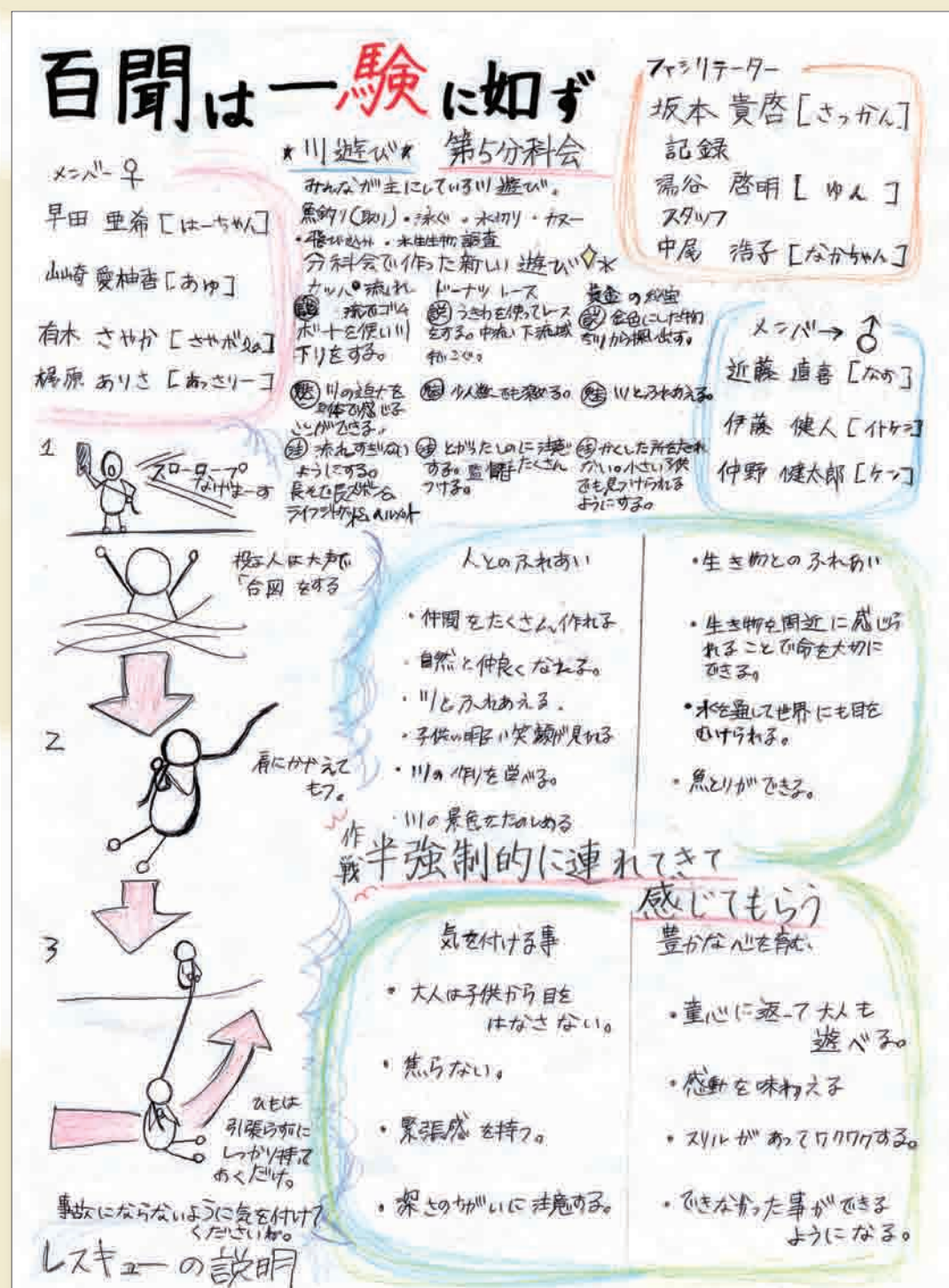


記録係
湯谷 啓明



事務局スタッフ
中尾 浩子

- 分科会の参加者全員が川でよく遊んでおり、体験をもとに話をしていたので、内容の濃い議論ができたと思っております。
- 見学の方と子どもとの間に隔たりを設けず、自由に参加してもらった分科会だったが、スローロープの投げ方を習ったり、昔の体験談をきいたりでき、良い結果になったのではないかとと思っております。訪問者の皆様に感謝しております。



山崎 愛柚香 神奈川県 高1



伊藤 健人 愛知県 中2



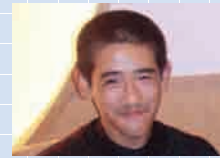
梶原 ありさ 福岡県 中3



早田 亜希 福岡県 高1



仲野 健太郎 福岡県 中1



近藤 直喜 鹿児島県 中1



有木 さやか 鹿児島県 中2

生活や産業に必要な水

水が足りない地域において、人間の生活や産業活動に必要な水を確保するために、子ども達ができること。

発表の概要

第6分科会は、「教育と学びのサイクル」という観点で話し合いをしました。教育や学びには「正しい知識」が必要です。「正しい知識」を持った人が生徒に教えていくことが必要だが、教える際にはヒントを与え、考えさせることが重要です。また、教えられる側は興味を持つ必要があるが、「環境問題」に興味を持っている人は非常に少なく、オタク視されています。興味を持つためには、実地体験が必要であり、学校から情報発信して行き、地域等を巻き込み、授業等で実施することにより、興味を持つ人が増えると考えます。「私たちは自分の活動を続け、身近なところから日本へ、世界へと発信し続けて行きます」と力強く宣言しました。



実行委員コメント

- みんなで出来る事を考え、実行していくことが大切です。みんなで考えると、違った意見もたくさんあります。正しい知識に自信が無いとの意見があったように、考え方のものさしはたくさんあります。だからこそ、みんなで考え、そこで決めたことを実行していくことが大切です。

ファシリテーター・記録係のコメント



ファシリテーター 福崎 康司



記録係 佐藤 大地

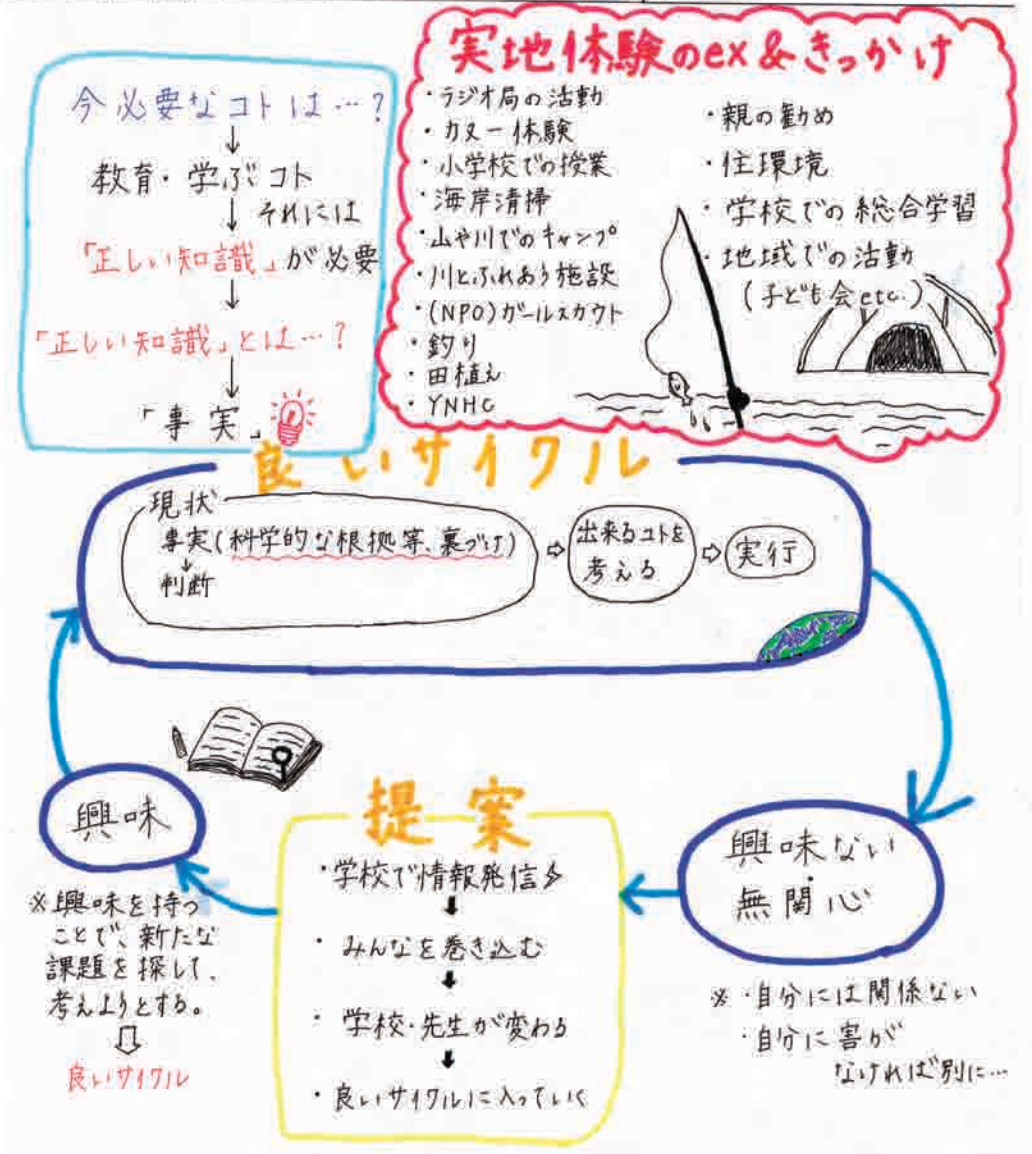
- 自分たちの議論した内容を、率直に、ストレートに表現できたと思います。第6分科会の子どもたちの「持ち味」を活かした発表だったと思います。
- 毎回ファンとして参加させていただき、多くの気づき、成長と、たくさんの感動をさせてもらっています。スタッフの方々に心から感謝します。(子ども達もありがとー！)

第6分科会「生活や産業に必要な水」

『教育と学びのサイクル』

ファシリテーター：福崎 康司(ごっきー)
記録係：佐藤 大地(だいち)

《氏 名》
青森：高木 駿(かみん) 高2
宮城：中村 翔也(翔也) 高3
福島：山崎 郁(きょく) 高3
東京：荒川 桃子(あらかわ) 高3
福岡：仲野 美穂(みほ) 高2
宮崎：土井 理美(とみ) 中3



高木 駿 青森県 高2



山崎 郁 福島県 高3



中村 翔也 宮城県 高3



荒川 桃子 東京都 高3



仲野 美穂 福岡県 高2

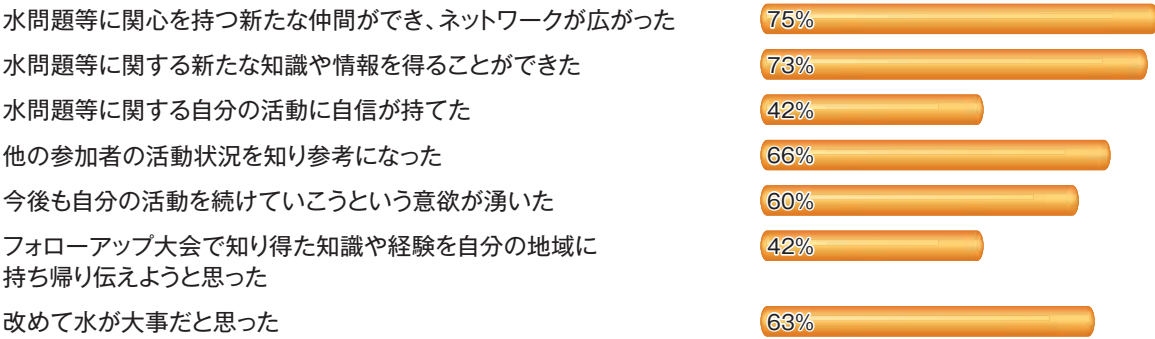


土井 理美 宮崎県 中3

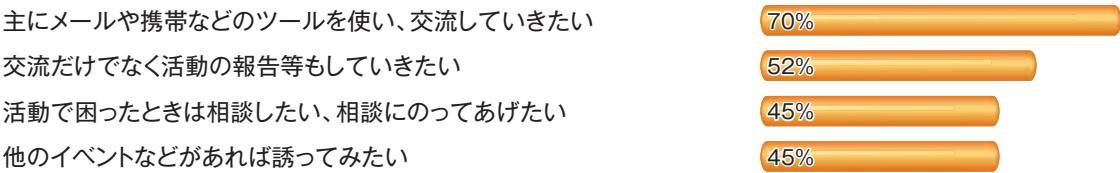
世界子ども水フォーラム フォローアップin東京に参加して (大会のアンケート結果より)

世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京の参加者40名に、参加しての感想等についてアンケートを行いました。ほとんどの参加者は、参加したことが、なんらかの刺激となり、活動意欲へとつながっていることが分かりました。また、今大会が同じ活動の仲間としてのネットワーク形成のきっかけづくりにも寄与していると考えられます。

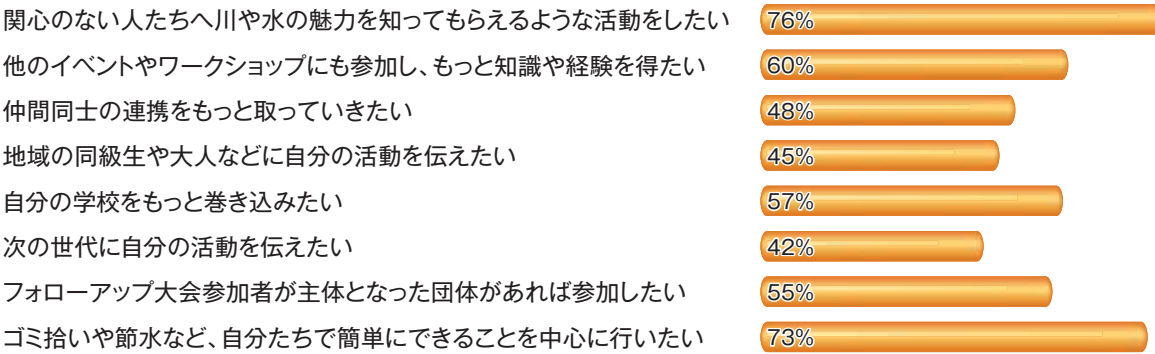
Q. 世界子ども水フォーラム・フォローアップin東京2008に参加して、何が得られたと感じていますか？



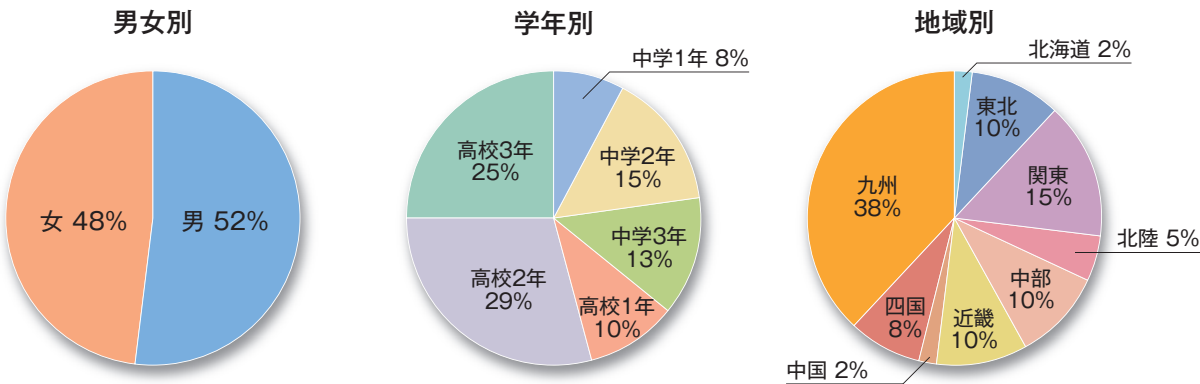
Q. 他の参加者と今度どのように交流していきたいですか？



Q. 今後、川や水に関して、どのような活動を行っていききたいですか？



世界子ども水フォーラムフォローアップin東京 参加者データ



関連ウェブサイトのご紹介

(財)河川環境管理財団

<http://www.kasen.or.jp/>

子どもの水辺サポートセンター

<http://www.mizube-support-center.org/>

カワナビ 国土交通省 河川局

<http://www.milt.go.jp/river/link/kawanabi/>

川に学ぶ体験活動協議会 (RAC)

<http://www.rac.gr.jp/>

参加者一覧

県 別	名 前	性別	学年	分科会
北 海 道	三上 絵理華	女	高3	4
青 森 県	桜庭 しほ	女	高2	1
青 森 県	高木 駿	男	高2	6
宮 城 県	中村 翔也	女	高3	6
福 島 県	山崎 郁	男	高3	6
茨 城 県	門口 光司	男	高1	3
茨 城 県	石坂谷 沙織	女	中1	2
栃 木 県	佐藤 勇慈	男	高3	3
栃 木 県	松崎 裕太	男	高3	2
東 京 都	荒川 桃子	女	高3	6
神奈川県	山崎 愛柚香	女	高1	5
長 野 県	市川 将大	男	高3	1
長 野 県	佐々木 渚	男	高3	3
岐 阜 県	大野 勝也	男	高2	1
岐 阜 県	下田 祐也	男	高2	2
愛 知 県	尾畑 那菜子	女	中2	3
愛 知 県	伊藤 健人	男	中2	5
滋 賀 県	小西 亜由美	女	高2	2
京 都 府	上村 真由佳	女	高2	1
兵 庫 県	岩橋 祐太	男	中2	4
兵 庫 県	椿 夏澄	女	高2	1
山 口 県	吉野 智美	女	中2	1
香 川 県	大谷 晃平	男	高3	2
愛 媛 県	大野 宏貴	男	高2	3
愛 媛 県	山中 佑也	男	高2	4
福 岡 県	衛藤 優美	女	中3	2
福 岡 県	松尾 かえで	女	中3	4
福 岡 県	曾根 裕子	女	中3	3
福 岡 県	仲野 健太郎	男	中1	5
福 岡 県	荒木 龍太郎	男	高2	4
福 岡 県	坂本 裕基	男	高2	2
福 岡 県	仲野 美穂	女	高2	6
福 岡 県	早田 亜希	女	高1	5
福 岡 県	塩塚 雅樹	男	高3	3
福 岡 県	梶原 ありさ	女	中3	5
宮 崎 県	土井 理美	女	中3	6
鹿児島県	近藤 大地	男	高1	4
鹿児島県	近藤 直喜	男	中1	5
鹿児島県	有木 さやか	女	中2	5
鹿児島県	豊田方 康輔	男	中2	1

実行委員・運営スタッフ等一覧

役 割	名 前	性別	所 属
実 行 委 員 長	岡 島 成 行	男	大妻女子大学 教授
実 行 委 員	青 山 佳 世	女	フリーアナウンサー
実 行 委 員	竹村 公太郎	男	日本水フォーラム 事務局長
実 行 委 員	中 嶋 章 雅	男	国土交通省河川局河川環境課長
実 行 委 員	宮 尾 博 一	男	(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター長
実 行 委 員	恵 小 百 合	女	江戸川大学 教授
実 行 委 員	栢瀬 貴美子	女	(社)ガールスカウト日本連盟 副会長
アドバイザー	舟 橋 弥 生	男	国土交通省河川局河川環境課 課長補佐
アドバイザー	田 中 里 佳	女	国土交通省河川局河川環境課 河川環境教育係長
アドバイザー	塚 原 健 一	男	日本水フォーラム プロジェクトリーダー
アドバイザー	戸野原 芳恵	女	日本水フォーラム
事 務 局	清 水 晃	男	(財)河川環境管理財団 研究第一部長
事 務 局	吉 野 英 夫	男	(財)河川環境管理財団 研究第一部長
事 務 局	並 木 和 弘	男	(財)河川環境管理財団 研究第一部研究員
事 務 局	吉 川 泰 司	男	(財)河川環境管理財団 研究第一部研究員
事 務 局	土 井 康 義	男	(財)河川環境管理財団 研究第一部研究員
事 務 局	花 田 須 磨 子	女	(財)河川環境管理財団
事 務 局	橋 本 仁 美	女	(財)河川環境管理財団
事 務 局	菅 原 一 成	男	(財)河川環境管理財団 子どもの水辺サポートセンター
ファシリテーター	池 田 幸 子	女	京都教育大学
ファシリテーター	小 野 寺 希	女	酪農学園大学
ファシリテーター	小 堀 進	男	NPO法人直方川づくりの会
ファシリテーター	坂 本 貴 啓	男	筑波大学
ファシリテーター	武 田 行 剛	男	大阪府立大学大学院
ファシリテーター	福 崎 康 司	男	京都大学大学院
記 録 係	佐 藤 大 地	男	日本大学
記 録 係	下 村 亮 介	男	九州工業大学
記 録 係	友 原 亜 紗 美	女	武蔵野美術大学
記 録 係	灰 塚 果 苗	女	日本大学
記 録 係	三 橋 涉	男	大阪府立大学
記 録 係	湯 谷 啓 明	男	京都大学
事務局スタッフ	中 尾 浩 子	女	横浜市立大学